



Peace Now! 2021

NEWS No. 14

2021.9.27.

【開催報告】

Peace Now! Nagasaki 2021

概要

日程：2021年9月2日(木)10:00~18:00
3日(金)13:00~17:30
4日(土)13:00~16:30

場所：オンライン会議システムZoom

参加者

岩手大(1)、東京大(1)、愛知大(2)、金城学院大(1)、立命館(1)、
島根大(1)、愛媛大(1)、下関市立大(1)、九州大(1)、西南学院大(1)、
長県大シーボルト(1)、北海道BK(1)、九州BK(3)、
現地実行委員(8)、連合会・ブロック(10) **計13会員34名(運営含む)**



【獲得目標】

1. ナガサキをいろいろな視点から見ることで76年前を身近に感じられるようになる
2. 過去と今の繋がりを知り、いろいろな考え方に触れることで自分の世界の広がりを感じる
3. 「私にとっての平和」を言語化して、自分たちが作っていく社会の中で主体的に何ができるか考える

01 長崎に来たつもりで！ 「長崎」と「ナガサキ」を学ぶ

企画①「長崎ってこんなところ！」

みなさんは長崎にどんなイメージを持っていますか？
Peace Now! Nagasakiの学びは長崎を知ることから。
クイズを交えながら楽しく学びました。「長崎」と「ナガサキ」の違い、長崎原爆に関する基礎知識、広島との違い、世界の核をめぐる状況などを理解することができました。
[観光都市・平和都市の両面](#)から長崎を見つめました。

長崎	地名としての表記
ナガサキ	平和や原爆に関連する事柄について、「長崎」と区別するための表記

守るべき自然と平和について考えるための歴史がたくさんある場所だと感じた。(東京大)

02 被爆者の声を聴き 被害の実相を知る

企画②「被爆体験講話」

11歳の時に被爆された山脇佳朗さんをお招きして講話をしていただきました。私たちは被爆者から被爆体験を直接聞くことができる“最後の世代”であると同時に、**被爆の実相を後世に伝えていく役割を担う“最初の世代”**だといえます。山脇さんのお話から自分たちには何ができるのか、参加者一人ひとりが考えました。

私たちは直接被爆体験を聞くことができる最後の世代です。

教科書では感じることにできないくらいの被害の大きさ・辛さを感じることができました。(岩手大)

03 見て、聞いて、話して ナガサキを感じる

企画③「オンラインでフィールドワーク！」

実行委員が撮影編集した動画に実行委員のガイド、紙芝居なども使いながらより深くナガサキを知りました。美しい街になった今も、私たちの足下には生きたくても生きられなかった人たちが眠っていることを忘れてはいけません。現地の風景とエピソードを同時に知ることで当時の人々の生活や平和への願いに想いを馳せることができました。

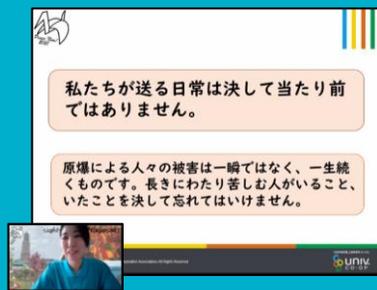


公園や川であったり、一本柱鳥居など普段の日常に戦争、原子爆弾を感じることができると感じた。(島根大)

04 人々の暮らしから 原爆の被害を考える

企画④「戦争による被害を考える」

原爆の被害は熱線・爆風・放射線による怪我や病気だけではなくありません。ストレス等からこころの病になったり、被爆者という事実からくる差別を受けたりと、多様な被害がありました。私たちの生活と比較したとき、日常生活を一瞬で奪った原爆の恐ろしさや当たり前にある生活の尊さを改めて実感しました。

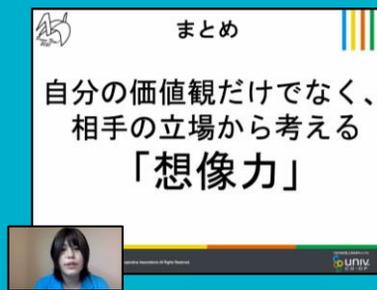


本人が何かしたわけではないのに差別されてしまったことについてはとても理不尽なことだと思いました。(愛媛大)

05 日本の戦争の加害面 知る前と知った後

企画⑤「日本の加害と私たちの「当たり前」」

戦争において日本は被害者の立場だけだったのでしょか？長崎市には日本の加害面に目を向けた資料館があります。資料館の資料を見ながら日本が外国に対して働いた加害について学びました。被害と加害の両側面があるように、見方を変えれば私たちの当たり前も覆ります。自分の価値観だけで判断せず多角的な見方と想像力が大切ですね。

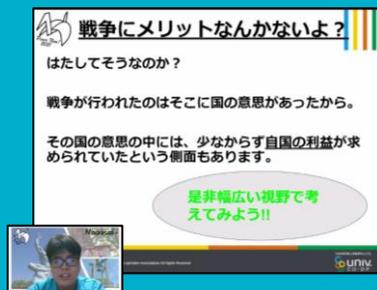


教科書が言っていることが全てと思い込むことの危うさを強く感じた。(下関市立大)

06 戦争って本当に ダメなんだろうか？

企画⑥「改めて考えてみよう」

何となく漠然としていた戦争してはいけない理由を自分の言葉で考えてみました。戦争をメリットとデメリットの両面から考えることで、今まで気付かなかった視点から戦争の姿を見つめ、戦争について自分の意見を深掘りしました。今の平和は多様な人々の願いや意思の上にあります。私たちも平和のために戦争を自分ごとに考え行動したいですね。

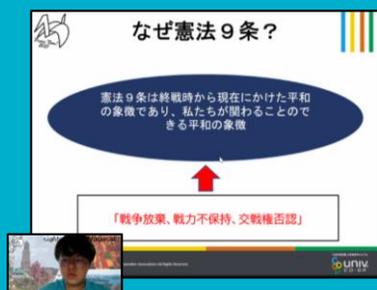


戦争がなくなるために「相手のこと（考え方など）を知る、わかろうとする」ことが大事だと思いました。(九州BK)

07 私たちは選挙という形で 平和に対して行動できる

企画⑦「憲法9条から平和について考える」

これまで学び考えたことを踏まえ、憲法9条を切り口に平和について考えました。大学で専攻している学問や現在の社会情勢などを絡めてそれぞれの視点から自分の考えを話し、他の人の意見を聞く中で意見を深めていきました。身の周りの問題に対して当事者意識を持ち、多様な立場の意見を想像・議論することの大切さを実感できました。

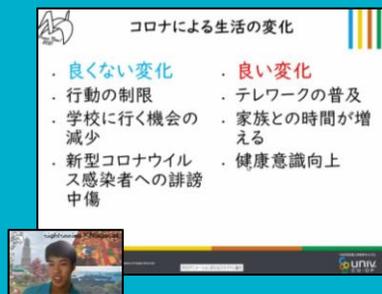


学部や出身は関係ない話し合いができたことは、自身の見方や視野を広げる良い機会となりました。(九州大)

08 私にとっての平和を 言語化しよう

企画⑧「平和とは何か考える」

今は平和だと思いますか？戦争が無い状態だけが平和ではないと思います。コロナ禍の今、各自の生活実感や社会情勢から平和だと思うかについて意見を交流しました。人それぞれの見方考え方があり「平和」を自分はどう捉え表現するか、各自で言語化しました。Peace Now! Nagasakiの3日間の学びを通して考えが深められました。

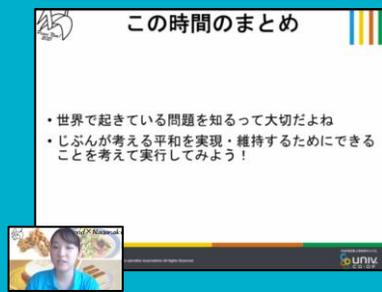


今ある当たり前
に感謝しながら
生活することが
大事で、それが
平和ということ
だと思いました。
(長県シーボルト)

09 自分にできることを ひとつでも見つけよう

企画⑨「これから見つける時間」

SDGsを切り口に世界の問題に目を向け、身近に起きたらどうなるか自分ごとにして考えました。そして自分にとっての平和を実現・維持するために、いち個人の行動や周囲の人と協力してできることを考えました。私たちは平和な社会をつくる一員として主体的に考え行動していくことが大切です。



社会の仕組み、
政治やニュース
に関心を持つ。
大学で学んでい
ることを、ぜひ
未来の世界平和
に繋げたい。
(愛知大)



ナガサキにつ
いて知り、考
えるきっかけ
になれば幸い
です。ぜひご
覧ください！

10 ナガサキを知る SNS企画

事前企画も展開しました

Peace Now! NagasakiのInstagramでは長崎について気軽に知り関心を持ってもらうための発信を行いました。8月9日に合わせた長崎原爆に関する情報発信や、本番前2週間での長崎の紹介、長崎の戦争・原爆に関する場所の紹介を行いました。まずは長崎を知ってほしいという思いで実行委員一人ひとりが投稿を行いました。

+A 私がつなぐ、あなたとつなぐ、 対話でつなぐ未来へのボタン

企画局長：ゆっきーからメッセージ

今年はNagasakiにとって初めてのオンライン開催でした。様々な不安があった中でみなさんが平和や社会についてたくさん考えてくれたことを嬉しく思っています。現地でFWができない代わりの動画作成や紙芝居の披露などオンラインだからこそできた企画もあり、オンラインでもきちんと私たちの想いを伝えられたPeace Now! Nagasakiになりました。私にとってPeace Now!とはただ戦争や社会について知るだけでなく、全国の大学生と平和や社会について語り合うことで自分の世界の広がりを感じられるものです。参加者のみなさんにもそれを感じてもらえていたら嬉しいです。私は平和や社会について考える時間がこの3日間で終わらせてほしくないと感じて強く願ったことまで作ってきました。どんな小さな変化でもいい、参加したみなさんのこれからに少しでも意識の変化があれば嬉しいです。そして平和や社会について考えたり行動したりすることがみなさんにとって特別なことではなく日常になりますように！



戦争や平和に関
する知識や事実、
想いを発信して
いくことができ
るような人にな
りたいと強く
感じました。
(金城学院大)

実行委員長：ぺっぴーからメッセージ

このPeace Now!では過去を知り未来を見据えて今を考えてきました。「長崎を最後の被爆地に」長崎の人々の祈りを継いで平和な社会をつくっていくのは私たち自身です。みなさんはこの3日間で長崎から何を学び感じ考えましたか？平和な未来へのボタンはみなさんの手に渡りました。「自分にとっての平和」をこれからも持ち続け、あなた自身の行動と対話を通じてボタンをつないでいきましょう。

